

「第17回 大月みらい協議会(人口問題・地域活性化を考える市民会議)」 会 議 概 要

日 時 平成28年12月1日(木) 午後7時から午後9時まで

場 所 大月市民会館 4階視聴覚室

出席者 委員10名(9名欠席)

小笠原則雄、梶原崇照、小鷹侑子、佐藤茂幸、志村淳、志村賢二、中島啓介、
福嶋尚美、三木範之、武者稚枝子

【事務局】 石井総務部長、石井企画財政課長、藤原地域活性化担当リーダー、榎本、堀内

【おおつき創生(都市計画マスター)プラン担当者】

市川産業建設部長、上條地域整備課長、三澤都市整備担当リーダー、石井

1. 佐藤副議長あいさつ

本日、星野議長さんは所用のため欠席となっておりますので、代わりに一言ご挨拶させていただきます。今日は12月1日ということで、一年の最後の月となりました。気持ち的にも身体的にも何となく忙(せわ)しなくなってきました。そのような中、委員の皆様にはお忙しい中お時間を割いてご出席いただきありがとうございます。今日は、欠席者も多いようですが、市の担当者の方の出席も多いようです。星野議長がお休みということで、つたない進行になるかもしれませんがよろしくお願いします。

一言、この場を借りてアナウンスさせていただこうと思います。現在、大月短期大学は、校舎の建て直しを行っております。来年の4月には新しい校舎が出来て、新しい学生を迎えて新たなスタートを切ります。建て直しに伴って校舎は木造で建設されています。当初、木造はどうかと思ったのですが、建物はCLTという工法を採用しているようで、この工法は、日本の学校建築では初めての新しい工法であり、集積材を使って構造的にもかなりの耐性があるという建物のような感じです。先日建物の中を見学する機会がありまして、中に入ってみたところ、結構立派というか、結構すごいなという感じがしました。また気持ちを新たに、来年度を迎えたいなと思っております。

大月短期大学は大月市立の大学です。今回の総合戦略や、これから話しのあるおおつき創生(都市計画マスター)プラン(以下「おおつき創生プラン」という。)を掘り下げて、大月短期大学として、大月市の地域活性化に貢献が出来ないかということでこの会議に出席していますが、中々思う様に進んでいないというのも実態であります。とは言え、まだまだこの会議は続きますので、大月短大としてのお手伝いが出来れば良いと考えております。皆さんも、会社とか事業とかいろいろな活動をされていると思いますが、そのようなところに市の政策を繋げられればと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

2. 議事

(1) 第16回会議概要について

- ・第16回会議概要について、委員から意見の表記を一部修正したいとの申し出があり、審議の結果、表記を一部修正した上で市ホームページへ公開することが承認された。

(2) 重点議論施策 前回会議の意見について

前回会議において、総合戦略の進捗状況報告書及び内部評価書については、一つ一つ議論していくと、説明するだけでも時間はいくらあっても足りないことから、大月みらい協議会で意見を述べるまたは議論する内容は、進捗状況報告書及び内部評価書の中でテーマに沿った施策に的を絞り、4つの施策について意見を出していただくこととなった。

4つの施策の内、前回の会議では3つの施策について意見を出していただいた。その意見を取りまとめたものについて確認が行われ、会議で了承された。この意見は今後、大月市生きがい創生委員会へ報告されることとなった。

(3) 重点議論施策

4 まちづくりの方向性の検討『おおつき創生プランについて』

議論に入る前に、進め方について佐藤副議長から確認事項として説明があった。

【佐藤副議長】

今日はおおつき創生プランの策定に向けて、担当者である地域整備課の方々がいらっしやっています、これから地域整備課の方々からご説明をいただく予定です。

このおおつき創生プランは、都市計画のマスタープランとなっていて、今まさに、都市計画の説明会が各地区で行われており、パブリックコメントも実施しています。従って皆さんはどこかでこの話しを聞いていたり、この計画についてはご理解されているのかもしれませんが、また、このおおつき創生プランについては、我々がこれまで議論してきた総合戦略と相並び立つようなものであり、重なる部分が多分にあります。総合戦略について評価するという点では、おおつき創生プランを理解することも大事になってきます。

そのようなことから、我々はまず、このおおつき創生プランを理解することから始めます。今日は時間をかけて、この計画について、我々は学習するということも含め話しを聞いた上で、議論を行い、総合戦略の意見にも繋げていきたいと思えます。

【上條地域整備課長】

おおつき創生プランの事務局をしている地域整備課課長の上條です。よろしくお願いたします。この計画は、大月市まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づいて、大月市の将来のまちづくりの方向性を示していくことを目的に、策定に向けて取り組んでいます。

この計画は、一つの計画の中で、各地区の都市計画の構想と大月市全体の構想を別々に作っています。先ほど佐藤副議長からお話しがありました通り、現在各地区の公民館で説

明会を実施していきまして、既に笹子地区、初狩地区、富浜地区、梁川地区の説明会は終了しています。今後は、猿橋地区、七保地区、瀬戸地区、大月地区、真木地区、賑岡地区を対象とした説明会を予定しています。また、12月17日までパブリックコメントを実施していきまして、意見の募集も行っています。

今日の会議では、おおつき創生プランの素案についてご説明させていただき、大月みらい協議会の委員の皆様から意見及び提案をいただき、パブリックコメントの意見と併せておおつき創生プランを修正・追加して、よりよいものにしていきたいと考えております。なお、今後の予定としましては、パブリックコメント終了後、年が明けた1月に開催予定の大月市都市計画審議会におおつき創生プランについて諮問し、答申をいただく予定です。

お手元の資料をご覧ください。資料が膨大で申し訳ありませんが、おおつき創生プランは全部で178ページあります。構成としては、第一編の第1章で大月市の全体構想、第2章では地域別構想、第3章では地域間の交通連携の検討、第4章では地域ブランド力の向上の検討となっています。また、第二編としまして、まちづくり手法導入及び実施計画の検討とありますが、ここでは大月駅北側の整備について市の構想を示しています。第三編では、桂台に関する都市計画の検討ということで、桂台三丁目の南側、土砂災害警戒区域となっていて、造成が終了している広い平らな土地11ヘクタールのエリアについて、この土地は住宅地として販売することが難しいことから、大月市では、富浜町宮谷にある山梨県立やまびこ支援学校及び山梨県社会福祉事業団のもえぎ寮の桂台への移転を検討しています。さらには、健康科学大学の介護専門学校誘致を考えていきまして、現在各団体と協議を進めています。既に桂台地区では、役員会及び住民説明会を5回程開催していきまして、住民の方からも様々なご意見をいただいております。

これからおおつき創生プランについて担当の方から説明をさせていただきますが、その後皆さんからご意見をいただきたいと考えております。よろしく願いいたします。

■その後、地域整備課の担当者から、おおつき創生プランについて説明が行われた。

【委員からの質問及び意見】

- （質問）来年度以降のスケジュールはどのように考えていますか？

【上條地域整備課長】

来年度は、大月駅の北側について、もう少し具体的に、どのような施設を誘導していきばいいのかということと、この計画に賛同・協力していただける方の調査を行っていきまします。最終的には立地適正化計画というものを策定した上で、もう少し詳細に、誘導したい施設を具体的に挙げていきたいと考えています。また、桂台地区については、現在、第一種低層住宅地域となっていますが、その用途地域の見直しを行う予定で考えています。

- （質問）具体的な目玉の整備としては、大月駅北側と桂台の遊休地、この2つを来年度から早速進めるということでよろしいですか？

【上條地域整備課長】

はい。

- （質問）私たちがこれまでに会議で話し合った中に、「小さな拠点」というものがあり、閉校となった小学校を利用できればという意見がありました。そして、そこで何か事業を起こせるようなことが出来ないかと散々話しをしてきました。その中で、実際に民間企業に学校の部屋を一部屋貸すということは、今考えていますか？

【上條地域整備課長】

これから決めていくことになります。そのようなご意見があればおおつき創生プランに取り入れていきたいと考えております。ただ、最終的に閉校した学校や跡地については、地元の皆さんの意見を尊重したいと考えておりますので、まずは市の方にいただいた意見を市役所の内部で詰めてくことになると思います。

- （意見）私は閉校した学校は、民間に使いわせるべきだと思います。私たちは、そういった地域の財産を「活用してなんぼ」ということで議論してきました。財産だと守ってしまっていて、あるものを飼いきれなくなってしまったり、私はどんどん活用して、民間に使いわせるべきだと思います。例えば、去年閉校した富浜中学校では、川に近いということから、駐車場として料金を取るような業者が出てくるということを開拓していった方が、必ず市にとって増収増益に繋がってくると思います。

- （質問）大月の北口開発は議会で承認されて決まったのですか？

【上條地域整備課長】

開発自体は何も決まっています。

- （質問）おおつき創生プランにある「小さな拠点」については、国土交通省が示しているものを抜粋したものだと思います。その中に、「持続的な拠点取組体制の確立（地域運営組織の確立）」とありますが、例えば、これを地域に作ってくださいということで、学校のようなところも開放していきますという理解でよろしいのですか？

先ほどのいきなり民間に貸すという意見も有りかもしれませんが、民間に貸すことが本当にある種の公平性や、公正であるのかということが、行政の方で必ず議論になると思います。そうではなくて、地域の住民の合意形成に基づいて、ある種の運営組織が出来て、それが法人格を持っているところであれば、そこに貸せますという理解を私はしています。

【上條地域整備課長】

学校の跡地については、教育委員会が管理をしているところと、例えばグラウンドだけというところは、学校の機能が全くないため普通財産として市の総務管理課が管理しています。一方、企業を誘致する担当では、企業を誘致する種地として使いたいという意向もあり、各部署で考えが違う状況があります。地域整備課では、ここで出た意見を一つに取りまとめて庁内の委員会に諮っていきます。今後は、各学校区で跡地利用検討委員会を設

置き、最終的には地元の皆さんと話しをしていくということになっていきますが、今お話しがあった件で考えなければならないこととして、ほとんどの学校と校庭が災害時の避難所や避難場所になっています。民間に売却するとなった場合、そのエリアの校庭、校舎、体育館を避難所として利用する方がいたりすることがありますので、地元の方のご意見を聞きながら、活用方法を慎重に考えていくことになると思います。

- （意見）私は、民間に使わせるという意見に賛成です。建物や校庭も含めて民間に貸せるような状態にして企業とかが入れば、結果として地域に雇用が生まれます。経済的な側面から考えると、市としてもそちらの方がいいのではないかと思います。我々も、企業からいろいろと大月の話しを聞くのですが、場所がないというのが一番の問題となっています。今、各地域に閉校した学校や跡地がありますが、やはり民間の力で利用していく方が、何かを始める場合、物事の進むスピードが速いのではないかと考えます。また、今、公民館が老朽化しているという問題がありますが、現実には各地域には公民館があるわけですね。それをどのように考えていくかは別としても、民間の力でまちづくりをしていくことを考えるとしたら、場所ということは非常に大事です。小さな拠点づくりも民間主導で行っていくことが大事だと考えます。
- （意見）民間主導という考え方で民間に委託する場合でも、市として、このまちをどのようなまちにしたいのかということを示す必要があると考えます。例えば、製造業などの工場を誘致してくるのか、あるいは創造的なものや文化的なものを持ってきて、そのような方面でまちを活性化していくのか。民間に任せるのは賛成なのだが、根幹の考え方が一番大事だと思います。
- （質問）市では、例えば学校跡地に誘致するとなった場合、どのようなものを誘致するのか考えはありますか？

【上條地域整備課長】

市の基本的な方針としては、跡地利用検討委員会を各地区で設置していただき、ここに、ここで出た意見を市の構想案として、跡地利用検討委員会にお諮りをしたいと考えております。その上で住民の方の意見を聞きながら、最終的には住民の方の要望が、出来るだけ叶うような方向に持っていければと考えています。このまちに何をというよりも、住民の方が何を望んでいるかということから、入っていくのではないかと考えています。

- （意見）今、拠点となっている大月駅北側の部分や桂台などの3つのエリアや、学校をどのようにしたいとか、インフラや交通網をどのようにしたいとかありますが、全てどういうイメージで市を作っていくのかということに係ってくるのかなと思います。また、住んでいる方が私利私欲を取って、真剣に大月市のことを考えていくことが必要だと思います。例えば、住民の方が、跡地をどのように活用したいか話し合いが行われた場合に、果たして大月市のためとか、大月市の将来的なビジョンを踏まえて要求を出してくるかと言えばクエスチョンが付くと思います。住民の意見もちろん大事ですが、そこには市からの具体的な提案があって、それに対して住民が意見を言う方がいいと思いました。

- （意見）漠然としてわからない部分もありますが、市民の方の意見には、いろいろな意見があります。それを聞きながらということになると、語弊があるかもしれませんが、どこまで市のビジョンに対して見識を持って、大月市全体のことについて、こうした方がいいということが言えるかということ、中々言えないと思います。そして、跡地利用の話があるときに、その活用方法は、私や市の方、一般の方もそうですが、何が適しているかは早々わかるものではないと考えます。私は民間を活用するという形がいいと思いますが、これはいいけど、これはやめてくれというという視点で議論していけばいいのではないかと考えます。絞るということは難しいと思います。最低これは駄目だけど、門戸は開くという形で議論した方がいいと思います。また、この議論のテーブルに着く際には、市は、まずは縦割りだけは外していただく必要があるかと思います。それが出来れば、大月市は大きく前進するのではないかと考えます。
- （意見）民間には、様々なニーズがあると思います。環境や人的に問題があるものは駄目かもしれませんが、ある程度、様々なジャンルから見て行けば、そのような活用の仕方もあるのかなと思います。
- （意見）災害時の避難所についても、企業との協定という形で確保することは可能なのではないのでしょうか。
- （意見）企業から500坪から1,000坪単位の広い土地があるかという話は私も聞きます。しかしながら、大月に対する企業の認識は、どこを探しても空いている土地がないということがあります。先ほどの学校の跡地についても、皆さんの意見にあるとおり、門戸が閉じている状態だと思います。誘致しようにもチャンスを潰してしまっています。結構問合せは来ます。中にはこんな使い方を考えているのかというものもあります。門戸は開いてみるべきだと思います。
- （意見）大月市は住んでいる方が思っている以上に、外から見ると立地が良い。甲府方面へ行くのにも、富士山方面へ行くのにも、東京方面へ行くのにも程よい距離にあります。立地が良くて程よい距離にありながら、外からの方からは、もったいない、活用できていないと思う方が非常に多いと感じます。そう考えると、門戸を開くことも大事ですが、私は大月駅北口の開発が非常に大事だと思います。2040年に19,000人を維持するためには、もしかすると一番のポイントになるのではないかと考えます。長年跡地はどうなるのか気になっていたもので、今日説明していただいた計画にすごくワクワクしています。
今、高尾の駅前では、大規模な商業施設が入って、マンションの建設が進んでいます。そこは都内でこれ以上すばらしい場所はないのではないかとこの宣伝をしていると聞いていますが、大月でも駅付近に住むところがあって、商業施設があつたりする中で、大月らしさを取り入れたものが出来ればいいと思います。本当に北口の開発が出来れば、大月は生き残れるのではないかと感じます。
- （意見）2040年ということを見ると、富士山の噴火や首都直下地震など、様々な災害が高い確率で発生するであろうと言われてはいますが、例えば首都直下地震が起きたら、

東京の方がこちらに避難してくるかもしれない。あるいは富士山が噴火したら富士吉田の方から大月へ避難してくるかもしれない。そのときに大月に住むところが提供できれば、もしかしたら、大月は皆が集まる場所になるかもしれないと考えることがあります。そうなったときのためにも大月駅の開発は、本当に妥協せずには是非やっていただきたいと思えます。

- （質問）大月駅北側のことでお聞きします。北側の土地は、現在すべて民間の土地ということですか。

【上條地域整備課長】

市の土地も一部ございます。

- （質問）市の方でゾーニング案を示していますが、これについて、地主との協議は出来ているのですか。

【上條地域整備課長】

今月、地主の方に説明させていただいて協力をお願いする予定でいます。ただ協力してくださいということではなくて、市で何らかのものを示していきたいと考えています。それも地主の方のみに見せるのではなく、このような計画に出して、大月市はこのような形にするんだということを、市民の皆さんにお示しをした上で、地主の方に協力をさせていただく予定でいます。先ほど、北側の進入路については、13mの道路を考えていますが、20号バイパスより広い道になることから、そのくらいの広さが必要ですかという話にもなると思えます。当然、土地は出せません、協力は出来ませんという話もあろうかと思えます。そんな中でも市としては考えられる最大の道を検討していきます。また、道を整備するために必要な金額を提示させていただいて、大月市はこれに向かって取り組んでいきますということを、皆さんにもご理解していただくような形を取っていきたいと考えております。

- （質問）道路の拡幅にはかなりのお金がかかると思いますが、そのお金は市が負担するイメージでしょうか。あるいは民間が負担することを考えていますか。

【上條地域整備課長】

インフラにかかる部分については、国からの補助金を活用しながら市で負担していくことを考えています。借金も当然しなければならないと思えます。そういったことを併せて考えています。その代わりに、例えば住宅とか高齢者の施設とか、託児所とかは民間の力を借りて整備を進めていく方向で考えています。

- （意見）今回、おおつき創生プランの素案を説明していただきましたが、これは私達みらい協議会においても、同じように問われていると感じました。先ほど学校の跡地の話がありましたが、私達市民に「どのような形にしていきたいのかということを実際に考えてください」ということを問われていると思えました。自分達のまちは自分達で考えるということが、これから特に必要になってくるのではないかと思えました。その部分をどうやっていくのが私たちみらい協議会に問われている部分だと思えました。例えば、学校の

跡地や、閉校した建物などの活用方法について、地域住民の皆で考えようとなったときに、誰がそれを仕掛けるのか、誰がつなぎ役をするのかが重要だと考えます。もしかしたら、私達みらい協議会の有志のメンバーが、その一部分を担う役目があるのかもしれないと思いました。

- （意見）地域が発展するためには、外発的な発展と内発的な発展の大きく2つの要因があります。外発的な発展は瞬発力があります。例えば企業誘致がそれに当たるのですが、持続的に発展していくためには、内発的な発展が必要だと言われています。それは地域のコミュニティを作っていくとか、地域住民で合意形成をしていくとか、新しいビジネスを作って新しい仕組みを作っていくことなどがそれに当たります。地域が主体となって、地域をどのようにしていくのかということを考えていかないと、持続的に発展が出来ないと言われています。市内全ての地域が同じ状況とは言えませんが、大月市も内発的な発展による地域づくりを構築することが必要な時期に差ししかかっているのではないかと思います。内発的な発展をやっていかないと、地域コミュニティや文化の発展の蓄積になっていかないとはいいます。

先ほどの「小さな拠点」という考え方は、そのような発想があると考えます。一つの施設を核（コア）として、核（コア）を中心に、そのエリアや空間をどのように作っていくのかということになるのかなと思います。生活の拠点とするのか、あるいは災害の拠点とするのか、様々な考え方があると思いますが、我々がどうするのか、地域の住民がどうするのかという内発的な発展の視点が必要であると思いました。

- （意見）大月駅周辺のゾーニング案の中の生活利便系施設の中に、子育て関連の施設の具体的な案として、託児所を設置した方がいいと考えました。大月駅周辺に託児所が出来れば、子どもを預けてそのまま通勤に出かけるというニーズが絶対あると思います。現に、奥さんが免許を持っていなくて、駅周辺の保育所が空いていなかったため、本当は家族で大月に住む予定が旦那さんの単身赴任になってしまったという話を聞きます。託児所は必要な施設であると思います。
- （意見）アンケートに回答してくださった方々の年代を見ていると、シニア層の方の意見が多く数値として表れているようです。先ほどの託児所が必要だという意見のように、これから、このまちで生きて、働いて、発展させていく世代の方々が、どう思うのか、どう考えているのかということが必要だと思います。若い方々はパブリックコメントを中々出してくれません。例えば高校生や短大生など、若い方々にこの計画を見てもらうということが必要だと思います。
- （質問）現在、おおつき創生プランの素案が市のホームページに掲載されているようですが、そもそも市のホームページでは、全体のアクセス数や個別にどのようなところに興味を持っているのかはわかるのですか？

【上條地域整備課長】

全体のアクセス数や個別のアクセス数もわかります。

- （意見）ホームページのどのページのアクセス数が多いかという傾向を捉えておくことは重要だと思います。若い方々はほとんどインターネットからほとんどの情報を得ています。
- （意見）大月短大とかでも、このおおつき創生プランを教材として、授業で扱ったらいかがかなと思いました。社会科の授業とかで、大月市ではこのようなことを考えているけどどう？という形で投げかけることで、家に帰って、子どもが家族と話しをする中で話題になってきます。小学校、中学校、高校などで、教材として投げかけてみてもいいかなと思いました。
- （意見）若い人たちという関連の中で、前回の会議で、大月市内には若い人たちが忙しくて、現実にはいないという意見がありましたが、若い人たちが集まっていると思うところとして、市役所の職員の皆さんかなと思っています。正直、私は頼りにしています。一緒に相談をしながら、戦略を練っていくことができる方が、集団の中にいらっしゃいます。市民の若い方と一緒に、共にがんばりたいと思っております。宝だと思っております。大事にしていきたいと考えています。
- （意見）10何年前から大月駅北側の話しを人づてで聞いた中で、10年くらい前の若者同士の忘年会などで話す中では、既得権者が言っているだけで、大月市の借金を増やすだけだということを皆が話していました。ただ、今回内容を聞いてみると、なるほど、夢があるなということで目から鱗が落ちました。これを、市で、しっかりと市民の皆さんに知ってもらうように広めていただき、市民の皆さんから賛同を得られるような丁寧な説明をしていただいて、事業として進めていただければ良いと強く思いました。私も今日の今日まで、大月駅北側を開発して借金が増えたら嫌だなと思っておりました。
- （意見）安全なまち、災害に強いまちということで、まず、市役所の庁舎を造っていただきたいと思います。市役所の方々は自分の家を造るのではなく、市民の家を造ることなので、遠慮しないで、最優先で、市民のために夢のある拠点を造っていただきたいと思います。
- （意見）私は、大月市の将来の人口について、目標人口を19,000人としていて、今より人口が減ることになるのですが、自分の生活や大月の生活がどのように変わるのか中々イメージが出来ていません。自分が住んでいる地域には、自分たちで何とかしようということで、住民同士が協力し合っている状況があるからです。今後、19,000人という人口の大月市は、生活の質や行政サービス、教育など、どんな地域になるのかイメージしたものがあれば、それを皆で認識して共有することで、この先の未来に向かって進めるのかなと思いました。

3. 今後の日程について

次回会議は、平成29年1月下旬頃に開催予定。